

# 学部長挨拶

田中 一

田中でございます。このシンポジウムもようやく3回目を迎えることができました。今回もまた、それぞれの分野の中心的な存在として活躍されている方々をお招きすることができました。ご承知の通り、50音順に申せば、東工大の今田さん、東大先端科学技術研究センターの大須賀さん、そして一橋大学の金子さんの3人の方々です。

3回目となると、いよいよこのシンポジウムも今後ずっと続いて行くのではないかと、いう気持ちが強くなってまいります。さらには、3回繰り返しながら段々形成されてくる、このシンポジウムの伝統とはどういうものかについて、今や見つめることができるようになった気がいたします。

思い返してみますと、最初は吉田民人さんと福村さんにおいで頂きました。そのときお二人は、ご自分の理論をご自分の言葉でお話下さったように思います。2回目にお出で頂いた方々もそうでした。このように、このシンポジウムの一番大きな特徴は、ご自分の話をご自分の言葉で私たちに示して頂き、それを中心に大いに自由に議論するということにあったように思います。もし、今後ともこのシンポジウムを続けて行く意味があるとするれば、その意味はこの点にあるのではないのでしょうか。これを伝統として、今後ますますしっかりしたものにして行きたいということを今強く感じております。

最後に、色々な苦勞を重ねてこのシンポジウムを計画し実行して頂いた研究委員会の方々、およびそれを裏から支えて下さった事務関係の方々にお礼を申し上げたいと思います。また、毎年多くの方々にご参加頂きまして熱心なご討論を頂いております。遠くからおいで頂いているスピーカと、ご参加頂いている方々に深くお礼申し上げまして私の挨拶といたします。